

2025 年度 JDS 学術集会若手セッションに関する報告書

日本糖尿病学会 将来計画委員会

委員長 綿田 裕孝

1. 企画について

- 本企画は 2024 年度の将来計画委員会にて発案され、第 68 回 JDS 年次学術集会(会長：金藤 秀明／川崎医科大学)での実現を目指し、理事会の賛同を得て立ち上げられた。
- セッション企画・運営を通じて、若手のネットワーク形成の場を創出し、次世代リーダーの育成を図ること、若手間の交流を活性化させることを目的とした。
- 各支部委員から推薦された若手研究者を中心に世話人を選出した。
- 選出された若手世話人メンバーは以下の通り。

支部	所属機関	氏名
北海道	旭川医科大学 内科学講座内分泌・代謝・膠原病内科学分野	野本 博司
東北	東北大学大学院医学系研究科	川名 洋平
東北	岩手医科大学附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科	小田 知靖
関東甲信越	国立国際医療研究センター 分子糖尿病医学研究部	霍田 裕明
近畿	滋賀医科大学 糖尿病内分泌・腎臓内科	
関東甲信越	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科	川野 義長
関東甲信越	東京大学大学院医学系研究科 先進代謝病態学	鈴木 顕
中部	愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科	三浦 絵美梨
近畿	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学	馬殿 恵
近畿	京都大学医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学	村上 隆亮
中国四国	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎免疫内分泌代謝内科学	三瀬 広記
九州	熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学講座	岡川 章太

- 2025 年 1 月 9 日に初回の企画会議を開催した。
- 会議ではセッションの目的・方向性を議論し、世話人代表は、旭川医科大学の野本世話人が立候補し就任した。

- 各世話人からの意見を募り、4 グループ構成で、テーマは「研究の魅力と留学」「基礎研究」「臨床・トランスレーショナルリサーチ」「働き方改革の中での研究・キャリアパス」とした。
- 各グループで継続的なオンラインミーティングを行い、構成や当日の進行などを自主的に企画した。
- 若手同士の活発な交流と情報共有が見られ、セッションを通じて新たなネットワークが形成された。

2. 当日セッションのレポート



日時：2025 年 5 月 30 日(金) 15:00~17:00

講演会場：第 5 会場(ラヴィール岡山)

演題名：若手研究者・臨床医の視点からみた糖尿病研究の今と未来(若手セッション企画)

来場者数：95 名

 [フォトライブラリー](#)

 [発表スライド](#)

グループ 1「研究の魅力と留学」ダイジェスト

世話人：馬殿 恵[リーダー]、野本 博司、三浦 絵美梨、三瀬 広記

- 世話人自身の留学経験をもとに、研究環境の違いや国際的キャリア形成の意義について語り、参加者にリアルな情報を提供した。
- 家族帯同や育児との両立、ラボでの立ち回りといった多様なライフスタイルでの留学体験が共有され、個々の背景に応じた選択肢の広がりが見られた。



- ・ 会場からも積極的な質問があり、「研究レベルの目安」や「家族の反応」など実践的な関心事に対して率直な意見交換が行われた。
- ・ 海外での挑戦を通じて得た自己発信力・文化適応力が語られ、会場の若手研究者に向けて励ましのメッセージがあった。
- ・ 留学中の宮先生からのビデオメッセージも紹介され、ドイツでの臨床研究や生活体験が新たな視野を広げる契機となっている様子が伝えられた。

グループ 2「基礎研究の魅力を語る」ダイジェスト

世話人： 川野 義長[リーダー]、川名 洋平、霍田 裕明、岡川 章太

- ・ 霍田世話人による「基礎研究の一日」紹介からスタートし、臨床医から研究者へと歩んだ実体験が、研究の面白さと挑戦のリアルさを引き出す発表を行った。
- ・ 川名・川野・岡川の各世話人が、それぞれの研究テーマ(臓器間ネットワーク、腸内細菌と代謝、褐色脂肪と代謝)を紹介し合い、分野横断的な視点で活発な意見交換が行われた。
- ・ 「失敗からの学び」や「家族・ライフイベントとの両立」といったトピックも真摯に共有され、研究生生活のリアルに共感が広がる温かい雰囲気。
- ・ 最後は、「基礎研究は面白い！」というメッセージを軸に、将来の仲間づくりや研究環境の多様性への希望を共有し、次世代へのバトンを感じさせる締めくくりとなった。



グループ 3「臨床・トランスレーショナルリサーチ」ダイジェスト

世話人： 三瀬 広記[リーダー]、鈴木 顕、馬殿 恵、村上 隆亮

- ・ それぞれのキャリアと研究テーマを共有し、臨床から基礎、社会実装までをつなぐ多様なリサーチの形を提示した。
- ・ コホート構築、遺伝解析、生活習慣介入、 β 細胞イメージングなど、異なるアプローチから糖尿病に挑む姿勢が参加者に刺激を与えた。



- 倫理審査・研究費調達・支援体制の活用など、若手にとって現実的な課題への具体的アドバイスが多く交わされ、実践的な学びの機会になった。
- 会場からの質疑や、事前アンケートに基づいたトピックが自然に議論に組み込まれ、登壇者と参加者との間に活発なインタラクションが生まれた。
- 「挑戦の現場にいる若手が語るからこそリアル」という空気感の中で、次世代を牽引する臨床研究者のネットワークが生まれつつあることを感じさせるセッションとなった。

セッション 4「働き方改革の中での研究・キャリアパス」ダイジェスト

世話人： 野本 博司[リーダー]、小田 知靖、川野 義長、三浦 絵美梨

- 研究・教育・医局運営を担う中堅層の4名が登壇し、「働き方改革」の現場で直面するリアルな課題と、それに向き合う工夫を多角的に共有。
- 各施設の改革事例(当直制の見直し、病棟支援医の配置、プチフレックス制度など)は、他施設にも応用可能なヒントが詰まっており、現場の知恵が集約された。
- 現場からの提案をきっかけに制度改革が進んだ事例も紹介され、若手の声が働きやすい環境づくりに実際に反映されていることが示された。
- 留学後のキャリア形成、海外ネットワークの維持、研究時間の確保など、個々の経験から語られる等身大の悩みと展望が共感を呼んだ。
- ディスカッションでは、「研究に進む人をどう育てるか」「地域医療や多様なキャリアをどう支えるか」といった世代を超えた対話が活発に交わされ、次世代育成への道筋が浮かび上がった。



3.【若手主導セッション アンケート結果 総括】

2025 年学術集会において初めて開催された若手主導セッションでは、登壇者である若手世話人を対象にフィードバックアンケートを実施し、今後の継続的な運営への示唆を得た。

①「横のつながり」の創出に大きな効果

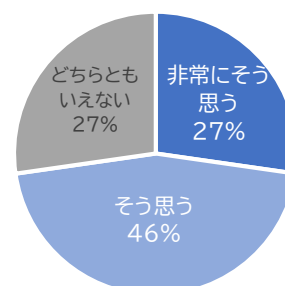
- ・ 全世話人が最高評価をつけ、打ち合わせ・セッション準備・懇親会を通じた一体感の醸成が強く実感された。
- ・ 専門・地域を超えた交流や対話が自然に生まれたことに価値を感じた声が多数みられた。
- ・ セッション後のつながり継続を望む意見もあり、将来のネットワーク形成基盤として意義があった。



企画を通じて、若手研究者間の「横のつながり」が生まれる・深まる機会となったと感じましたか？

② 若手の課題解決の場として一定の効果があったが、今後の工夫が課題

- ・ ポスドクや大学院進学を検討中の参加者にとって、有意義な情報提供の場であり、キャリア形成の課題に向き合う機会として肯定的な意見がみられた。
- ・ 若手参加者からの質問や発言がやや少なかった点や、聴講者の属性が把握しにくかった点を課題とする意見があり、双方向性の工夫が今後の検討課題とされた。
- ・ テーマ設定や時間配分により議論が深まりきらなかった場面もあったとの指摘もあり、内容の重点化や構成の工夫を求める意見が寄せられた。



セッションは、若手が直面する課題を共有・解決し、キャリア形成を支援する場として機能していたと思いますか？

③ セッション全体の構成・進行は高評価、今後の改善余地も

- ・ テーマの多様性やセッションの進行に好意的な意見が多かった。
- ・ 一方で、対象とする若手層の明確化やテーマの絞り込みを求める声もあり、「広さと深さ」のバランスが次回の鍵と考えられる。
- ・ 若手参加者の比率や会場環境(登壇者用モニター、参加型形式など)も改善点として挙げられた。

④ 運営体制の評価と継続への提案

- ・ 野本世話人代表による全体統括、セッションリーダーによる調整、スモールグループ制が非常に好評で、連携・分担ともにスムーズだったとの声が多数あった。
- ・ 会議日程の調整(特に勤務時間外の開催)や労務的配慮については、今後の体制整備が必要との提案があった。

⑤ 次回に向けた形式・テーマ・制度面での提言

- ・ 参加型・対話型の形式(リアルタイムアンケート、質問募集型、ディスカッション重視など)を望む声が多く挙がった。
- ・ 留学・ポスドク・博士課程・育休復帰など具体的なライフステージ課題へのテーマ設定が挙げられた。
- ・ 若手が自由にテーマ提案できる形式も好まれ、聴講者と登壇者双方の参加意識を高める設計が求められる。
- ・ 世話人の継続・更新方法(固定／ローテーション／一部入替)についても、制度的整備への期待が示された。

4. まとめ

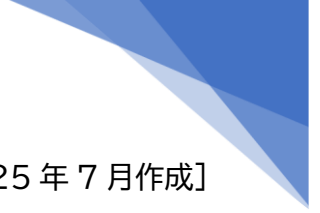
本セッションは、若手同士のつながりを可視化・活性化するとともに、将来の学会を担う人材の成長支援の場として、有意義かつ継続的に発展させる価値があることが示唆された。今後は、若手層からの声を拾い上げる仕組みや、登壇者・聴講者双方にとって「参加してよかった」と思える構成の構築が期待される。



5. 今後の展開報告

- 若手研究者の企画は、学会の持続的な発展と多様なキャリア形成支援に寄与するものであり、今後も継続的に展開されることで、学会全体の活性化と若手支援に資することが望まれる。

以上



[2025 年 7 月作成]